

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

AYA 支援チームのモデル作成に関する研究

研究分担者 鈴木 達也 国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科外来医長

研究要旨： AYA世代のがん患者の治療、就学、就労、生殖機能温存等に関する支援のため、院内横断的に活動する多職種支援チーム「AYA世代支援チーム」への参加を拡充し、スクリーニングシート「困りごとを見落とさないためのツール」を用いて、AYA世代の患者の困りごとや悩み等を早期に把握して、院内の支援体制につなげる活動を科等の入院 8 病棟、外来部門等に拡充した。また、生殖医療機関との診療連携のために構築した検討の場を、多施設に展開し、AYA世代支援活動への地域モデル構築に向けた取組を進めた。

A. 研究目的

国立がん研究センター中央病院は、平成 27 (2015) 年度にAYA世代を支援する多職種診療チームを発足させ、悩みのスクリーニングや生殖機能温存に関する支援を行ってきた。

平成 30 (2018) 年 3 月に閣議決定された第 3 期がん対策推進基本計画（以下、「基本計画」という。）には、AYA世代のがん対策として取り組むべき施策のなかに、「AYA世代の多様なニーズに応じた情報提供や、相談支援・就労支援を実施できる体制の整備」や「治療に伴う生殖機能等への影響など、世代に応じた問題について、医療従事者が患者に対して治療前に正確な情報提供を行い、必要に応じて、適切な生殖医療を専門とする施設に紹介できるための体制」の構築等が盛り込まれている。

基本計画を踏まえて、院内横断的なAYA世代支援チームの体制を充実させるとともに、地域の医療機関との活動を通じて、地域におけるAYA世代支援のネットワーク形成に向けた取組強化を目的とする。

B. 研究方法

昨年度、院内電子カルテに導入した「困りごとを見落とさないためのツール」の活用によるAYA世代のがん患者支援の対応を、外来部門等に展開するとともに、院内横断的な検討会を定期的開催し、AYA世代支援チームへの多職種の参画、各病棟や病院内の各部門との連携のあり方、他医療機関や院外リソースとの連携等、支援チームに求められる機能や構成について検討を行った。

生殖医療の連携のために立ち上げた連携会議への参加施設の拡充とその効果について検討し、地域でのAYA世代支援モデルへの発展を視野に入れた試行的な取組を進めた。

（倫理面への配慮）  
該当せず

C. 研究結果

各診療科、看護部、薬剤部、栄養管理室、地域医療連携部、がん相談支援センター等の参画を得て、AYA世代支援チームを立ち上げ、院内横断的な患者サポートセンターを中心に活動を展開した。

AYA世代の困りごとや悩み等のスクリーニングを行うために、電子カルテに搭載したスクリーニングシートを、院内 8 病棟、血液腫瘍科外来・通院治療センター等の外来部門で活用し、2019 年 4 月から 2020 年 3 月までに、のべ 926 件のスクリーニングを行い、AYA世代のがん患者の状況把握をおこなった。

スクリーニングシートの情報に応じて、患者サポートセンターの常設プログラムである、同世代の患者が集まって交流や情報交換を行う「AYAひろば」、生殖医療連携、就労支援・両立支援等の活動と連携し、AYA世代支援チームの活動を院内の支援体制につなぐモデルを構築した。

がん専門病院と生殖医療施設の円滑な医療連携モデルとして立ち上げた連携会議への参加施設を拡充し、専門性や個別性の高い妊孕性温存に関する知識や意思決定支援の対応に関して、施設を越えた多職種間での共有に向けた取組につながった。

D. 考察

罹患する患者数が少なく、疾患の専門性や個別性の高いAYA世代の患者支援においては、多職種による院内専門支援チームによって、院内活動をリードすることが有用であった。そのためには、支援チームの知識と経験を蓄積し、共有する取組や仕組みが重要であると考えられた。

また、地域でのAYA世代支援モデル構築のためには、特定の課題やテーマに応じて専門的知識等を共有できる取組や仕組みが重要であると考えられた。

#### E. 結論

院内のAYA世代支援チームの活動を通じて、AYA世代がん患者の困りごとや悩み等についての知識や経験を院内で共有、蓄積するとともに、地域の連携会議への参画施設の拡充を通じて、AYA世代がん患者の支援についての知識や経験を、地域で共有、蓄積する仕組みの構築が重要である。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

- 1) Hirayama T, Ishiki H, Ando Y, Udagawa R, Kobayashi M, Kojima R, Shindo A, Tanaka M, Sasaki C, Horiguchi S, Kondo C, Sato K, Ishii K, Noguchi E, Mori A, Suzuki T, Shimizu K, Satomi E. Factors that affect distress faced by adolescents and young adults with cancer. 2019 the Japanese Society of Medical Oncology Annual Meeting(第17回日本臨床腫瘍学会学術集会). 2019年7月18日-20日. 京都市
- 2) Hirayama T, Yanai Y, Ishiki H, Shindo A, Tanaka M, Kobayashi T, Suzuki T, Shimizu K, Satomi E. Development of a screening form for Japanese adolescent and young adult patients with cancer : a work in progress. 25th World Congress of the International College of Psychosomatic Medicine. 2019年9月13日. フィレンツェ
- 3) 安藤弥生、平山貴敏、石木寛人、宇田川涼子、小林真理子、小島リベカ、新藤明絵、田中萌子、堀口沙希、近藤千秋、石井和美、野口瑛美、森文子、鈴木達也、里見絵里子. AYA世代がん患者のがん治療中のニーズの性差. 第57回日本癌治療学会学術集会. 2019年10月24日-26日. 福岡市
- 4) Miyoshi Y, Higuchi A, Suzuki T, Isoyama K, Kawai Y, Tataru R, Tokunaga E, Ishida Y, Iguchi M, Suzuki N, Kiyotani C, Ozawa M, Yamamoto K, Ishida Y, Horiba K, Shimizu C. A multi-center questionnaire survey regarding acceptance of long-term follow-up AYA cancer patients. (AYA世代がん患者の長期フォローアップに関する多施設パイロット研究). 第61回日本小児血液・がん学会学術集会. 2019年11月14日-16日. 広島市
- 5) 稲村直子、藤井恵美、鈴木達也、中村希、秋谷文、塩田恭子、片岡明美、加藤友康. がん専門病院とがん生殖医療施設間の妊孕性温存支援の症例検討による連携強化の取組み. 第10回日本がん・生殖医療学会学術集会. 2020年2月15日-16日. さいたま市
- 6) 平山貴敏、柳井優子、石木寛人、新藤明絵、

田中萌子、小林智美、森文子、鈴木達也、清水研、里見絵理子. 国内のAYA世代がん患者を対象としてスクリーニングシートの開発. 第2回AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会. 2020年3月20日-21日. 名古屋市

#### 3. 政策提言

- 1) 鈴木達也他和訳監修. トロント小児がん病気分類ガイドラインに基づく「住民ベースのがん登録のための小児がん病気分類」2019年10月

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし